

1. 北海道（地域別調査機関：株式会社北海道二十一世紀総合研究所）

（－：回答が存在しない、＊：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (北海道)	◎	一般小売店〔土産〕（経営者）	来客数の動き	・大阪・関西万博の開催や沖縄の大型レジャー施設の新規開業が影響して、北海道を訪れる旅行客が減少することを懸念していたが、8月に入っても来客数が前年を上回って推移している。この要因として、北海道の観光地としての人気が根強いことが挙げられる。特に、インバウンドについてはコロナ禍からの回復が進むなか、ゴルフなどのアクティビティが浸透していることで、夏の北海道旅行に対するニーズが高まっている。
	◎	旅行代理店（従業員）	来客数の動き	・夏の観光繁忙期を迎え、国内線も国際線も観光需要が増加している。空港は観光客や帰省客などの利用で混雑している。国際線は、7月に地震が起きるといふ予言の影響で、香港からの観光客が前年よりも減少したが、中国、韓国、台湾などは堅調な伸びがみられている。
	◎	観光名所（従業員）	来客数の動き	・猛暑が続いていることで、観光やレジャーどころではない人が多くなることを懸念していたが、天候に恵まれたこともあって、連日大にぎわいの様相を呈している。8月単月としては、過去最高の利用者数を更新している。物価高の影響で観光を控えるといった雰囲気は微じんもなく、特に国内からの個人観光客の利用が目立っている。外国人観光客の利用も相変わらず多い。
	○	一般小売店〔酒〕（経営者）	販売量の動き	・8月はお盆前に様々なイベントがあり、天候に恵まれたこともあって、売上の良い状態を維持できている。
	○	スーパー（企画担当）	来客数の動き	・今年は、ここ数年にないほど、お盆の帰省客が多かったことから、特に地方の店舗の売上が好調であった。その一方で、都市部の店舗の売上はやや低調であった。
	○	住関連専門店（役員）	販売量の動き	・売上の前年比が3か月前よりも上昇している。気温の上昇に伴って、夏物商材の販売量が増加している。
	○	高級レストラン（スタッフ）	単価の動き	・これまでの客単価の上昇を目指した施策が奏功して、高単価でも利用する客層が増えており、客単価が上昇している。
	○	高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・本格的な観光シーズンに入ったことから、3か月前と比べて、観光客の来店が増えている。ただし、前年と比べると、来客数は減少している。
	○	その他サービスの動向を把握できる者〔フェリー〕（従業員）	来客数の動き	・若干ではあるが、個人客の利用が伸びている。旅客輸送量は前年を上回っている。
	□	商店街（代表者）	来客数の動き	・8月前半は、ここ数年と比べても来街者が多く、にぎわいがみられたものの、8月後半、特に20日以降は、来街者が目に見えて落ち込んでいる。お盆期間中は、帰省客が来街する様子もみられなかった。また、ホテルの宿泊客については、観光客の利用は前年と同程度であったものの、ビジネス客の利用が少なかった。月全体としては、引き続き悪い状態で推移している。
	□	一般小売店〔土産〕（経営者）	お客様の様子	・8月の売上は、2024年比で106.5%、2023年比で137%、2022年比で212.2%、2021年比で521.2%、2020年比で457.6%、2019年比で131.7%となっている。
	□	百貨店（売場主任）	単価の動き	・来客数は比較的順調に推移しているものの、客単価が上向いてこない状況は変わらない。
	□	百貨店（販売促進担当）	来客数の動き	・売上の主力であるインバウンドの来客数が横ばいであったことから、売上の増加はみられなかった。大きく売上を落としているラグジュアリーブランドもあることから、先行きについても不安である。

☐	スーパー（店長）	来客数の動き	・新型ゲーム機など、趣味し好に関する商品については、在庫があれば即決で購入する動きがみられる。一方、バーゲンセール衣料品など、不要不急の商品については、価格が安くなっても購入を控える様子がうかがえる。客は金の使い方の優先順位をしっかりと決めており、結果として消費に回す金額は一定に保たれている。
☐	コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・6月末から7月にかけては、例年よりも気温が高かったことから、夏物商材の販売量が伸びたが、8月に入ってから例年並みで推移している。売上や来客数の伸びは、6月以前と同様の水準に落ち着いている。
☐	コンビニ（エリア担当）	お客様の様子	・備蓄米使用の安価な弁当が好調に売れていることから、消費者が価格に敏感なことがうかがえる。ただし、間もなく販売が終了し、価格帯が元に戻るため、先行きが心配である。
☐	コンビニ（エリア担当）	販売量の動き	・8月は気温の上昇に伴って、飲料などの販売が好調であった。ただし、お盆後の気温が落ち着いた日は、販売量が減少する傾向がみられた。このため、販売量の増加は一過性のものであり、客の消費行動は停滞したままであるとみられる。
☐	衣料品専門店（経営者）	来客数の動き	・前月と同様に、物価高の影響で客の節約志向が強い状況にある。また、例年よりも暑い日が続いていることで、客が外出しない傾向がみられる。
☐	衣料品専門店（店長）	お客様の様子	・お盆前は、買う物も売る物も中途半端な時期であることから、夏枯れのような状況で閑散としていた。お盆後は、日中と夜間の気温差が大きくなったことから、羽織物を中心に販売量が増加している。月全体でみると、前年をやや上回ると見込まれる。
☐	乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・新車の登録台数に余り変化がみられない。メーカーの生産台数がもっと増えてくれば、登録台数も増えることになり、収益も上向くようになる。整備部門については、入庫台数がやや増えているが、乗換えサイクルが伸びていることが要因である。そのため、全体の収益は変わらない状況にある。
☐	自動車備品販売店（店長）	来客数の動き	・8月は来客数が前年比110%、売上が前年比130%となっており、数字上は良くなっている。ただし、これは9月にタイヤの値上げが行われることが影響したためとみられる。タイヤの値上げがなければ、ここまで売上が大きく増加していなかったとみられることから、景気は変わらない。
☐	その他専門店〔ガソリンスタンド〕（経営者）	単価の動き	・石油製品価格に大きな変動がみられないことから、景気は変わらない。
☐	スナック（経営者）	来客数の動き	・来客数も売上もほとんど変わらないため、景気は大きく変わらない。
☐	旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・宿泊料金の上昇が続いていることから、旅費にも影響が出ている。客の動向は2極化しており、見積金額を確認して旅行を取りやめる人とその金額を受け入れて契約する人に分かれている。
☐	旅行代理店（従業員）	来客数の動き	・3か月前と比べて、来客数に大きな変動がみられない。
☐	タクシー運転手	来客数の動き	・採用に注力した効果で乗務員が順調に増えている。8月のタクシーの稼働台数は、前年比で20%の増加となり、タクシー1台当たりの売上も前年比で6%の増加となったことから、会社の売上は前年比プラス30%と大幅増収であった。ただし、乗務員の採用コストや人件費、いろいろなコストの増加もあって、利益は前年並みであった。
☐	タクシー運転手	販売量の動き	・夏のイベントが開催されたことで、若干ではあるが、来客数が増えた。特に地元客の増加が目立った。商店街などでの取組が需要を刺激したとみられる。
☐	タクシー運転手	来客数の動き	・お盆期間中のイベント時の利用も例年並みであり、特に変化はみられなかった。

□	タクシー運転手	販売量の動き	・夏になり、観光客の利用が増加しているものの、乗務員不足が顕著なことから、思うような稼働状況とはなっていない。当業界においては、乗務員不足が深刻な問題となっている。
□	通信会社（企画担当）	来客数の動き	・今年の春以降、都市部、地方にかかわらず、客からの引き合いも販売量も目立った変化がみられない。
□	美容室（経営者）	お客様の様子	・今後、米や食料品が大幅に値上がりする不安がなくなったことで、客の気持ちに多少のゆとりがみられるようになっていいる。多少ではあるが、おしやれに対する気持ちが上向きになっている。
□	美容室（経営者）	来客数の動き	・例年8月は、夏季休暇などで帰省した人が来店する動きがみられていたが、今年はそうした動きが余りみられなかった。
□	住宅販売会社（経営者）	お客様の様子	・住宅が余り建っていないため、住宅部門が厳しい状況にある。また、食品などの物価が上がっていることで、ホームセンターの売上も厳しくなっている。
□	住宅販売会社（経営者）	お客様の様子	・分譲マンションについて、1週間当たりの資料請求数が比較的安定しており、モデルルームへの来訪予約数も大きな変化はみられない。最近の傾向として、客の商談時間が短くなっていることが挙げられる。来訪してすぐに購入申込みをする客もみられる。
□	住宅販売会社（従業員）	単価の動き	・建築単価が高止まりしているため、景気は変わらない。
▲	商店街（代表者）	販売量の動き	・物価高の影響で可処分所得が減っている。販売量の落ち込みや客単価の2極化が進んでいる。
▲	商店街（代表者）	お客様の様子	・客の反応は決して良いものではない。国の経済対策の方針がはっきりとしないため、景気が上向くような状況とはなっていない。
▲	商店街（代表者）	来客数の動き	・今年の夏は猛暑の影響で、客が家から出ることをためらうようになり、商店街は閑散としている。そのため、飲食も物販も来客数が伸びず、大幅な売上減少に見舞われている。
▲	スーパー（店長）	お客様の様子	・物価上昇が続いていることから、家計を切り詰めて生活している客が多くなっている。そのため、客は最低限の物しか買わなくなっている。
▲	スーパー（店長）	販売量の動き	・物価高騰が続いているため、景気はやや悪くなっている。
▲	スーパー（企画担当）	来客数の動き	・お盆期間中は、帰省客が多かったものの、旅行などで出掛ける人も多かったことから、全体的には来客数が減少している。
▲	スーパー（役員）	お客様の様子	・今年のお盆商戦は、例年よりも休みの期間が長いこともあって、帰省客や観光客が多く、好調に推移した。ただし、お盆期間中に金を使ったことで、お盆後は客の節約志向が強まっている。
▲	コンビニ（エリア担当）	販売量の動き	・8月は、7月と比べると暑さが落ち着いていたことから、飲料やアイスなどの夏物商材の販売量が減少している。また、今年はお盆期間の合間に平日が挟まり、休みが前半と後半で分かれたため、行楽需要も減少している。
▲	衣料品専門店（エリア担当）	来客数の動き	・お盆期間の来客数が、前年よりも少なくなっている。これは帰省や夏休みの行楽で外出した客が多かったためとみられる。また、必要なときに必要な物を買う傾向も変わっていない。そのため、今後、残暑が長引くと、景気は厳しい状況となる。
▲	乗用車販売店（経営者）	競争相手の様子	・当地域の新車登録台数は、競合他社の分も含めて、前年比66%と厳しい状況にある。また、今まで堅調に推移していた中古車や整備工場の売上、利益も前年を下回り、収益面で厳しい状況となっている。
▲	乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・現在の商品構成が弱いことから、景気はやや悪くなっている。10月に新商品が投入されるため、今後の販売量は多少回復すると期待している。ただし、物価高の影響が続いていることから、客の購入マインドの弱さは否めない。

	▲	乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・新車の受注量も売上も前年を大きく下回っている。ただし、中古車やサービス工場の売上は前年並みで推移している。
	▲	その他専門店〔医薬品〕（経営者）	お客様の様子	・SNSやテレビを通じて、客が薬の知識を得るようになってきている。悪いことではないが、当業界の場合、客からの健康相談に対応することが、販売促進の主要な手段となるため、やや厳しい状況にある。また、客のなかには、明らかに誤った知識を得ているケースも多々みられることから、正しい知識に訂正していくことも重要になっている。
	▲	その他専門店〔造花〕（店長）	お客様の様子	・大手事業者における一般貨物自動車運送事業の許可取消しの影響で、商品入荷の不安定な状況が続いている。中には、予定していた納期に間に合うめどが立たず、注文を取り逃すケースも生じている。また、お盆の影響もあって、客先が仕入れ自体を控える傾向もみられた。
	▲	高級レストラン（スタッフ）	販売量の動き	・お盆期間中の売上は例年並みであったが、8月後半は落ち込みがみられ、月全体では前年を下回った。客単価は、昼も夜も低下している。夕方のデパ地下で弁当を購入する外国人観光客が増えていることから、観光客による外食の消費額が減っていることがうかがえる。友人が勤務しているホテルも、宿泊人数や客単価が伸び悩んでおり、売上が減っている。
	▲	旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・今年度に入ってから、余り良くない状況で推移していたなか、ここに来て需要が一層落ち込んでいる。特に取扱商品の中心となる企業の職場旅行については、物価の上昇、賃金の引上げ、経費負担の増加により、中止する動きも散見される。
	▲	美容室（経営者）	お客様の様子	・物価高の影響で、客の来店周期が長くなっている。
	×	一般小売店（経営者）	来客数の動き	・8月は、今年に入って、最も客の動きの悪い月であった。例年よりも気温が高いことが影響しているほか、物価高や政治の不安定さにより、先行き不透明感が強まっていることが悪影響を及ぼしている。
	×	スーパー（店長）	お客様の様子	・令和の米騒動の影響で、前年の米の販売量が増加したことから、今年はその反動が生じている。
	×	スーパー（店長）	お客様の様子	・毎週のように商品が値上がりしているため、客の買物の仕方がシビアになっている。客はとにかく安い商品、値引きしている商品を選んで買っている。余計な物を買うような動きもみられない。
	×	観光型ホテル（経営者）	来客数の動き	・7月に日本で地震が起きるという予言の影響が根強くみられる。いまだにインバウンドの団体客が減少しており、業績悪化の要因となっている。
企業 動向 関連 (北海道)	◎	—	—	—
	○	食料品製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・ここ2か月と比べると、インバウンドの需要が回復していることで売上が伸びている。
	○	建設業（役員）	受注量や販売量の動き	・残暑の厳しい日が続いているものの、建設現場では熱中症対策を講じていることから、工程を妨げるような事態とはなっていない。各現場は工事の最盛期を迎え、フル稼働状態が続いており、計画を上回るペースで工事が進捗している。
	○	輸送業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・7月末の津波警報の影響で、作業スケジュール、配船ダイヤが乱れ、コンテナ専用の台車供給などに影響が出た。また、本州向けトレーラーは、一般雑貨、生乳、飲料関連の荷動きが鈍かったものの、紙パルプの一部、農作物の輸送量が増えたことから、全体をカバーした。
	○	その他サービス業〔建設機械リース〕（営業担当）	受注量や販売量の動き	・人手不足、資材価格の高騰などのマイナス要因はあるものの、国内の公共投資は、国土強靱化基本計画への対応などで堅調に推移している。また、民間設備投資も堅調に推移している。
	□	農林水産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・早生りんごについて、良い話を聞かない。今秋も青果物全体的に厳しい状況となることが懸念される。
	□	食料品製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・売上に変化がみられない。

	☐	建設業（従業員）	受注量や販売量の動き	・徐々に景気は上向きつつあるものの、人手不足が足を引っ張っている。人手不足が解消されない限り、本当の意味での景気回復とはならない。
	☐	広告代理店（従業員）	受注量や販売量の動き	・株価が底堅く推移していることから、景気に大きな変化はみられない。
	☐	司法書士	受注量や販売量の動き	・業務内容に多少の違いはみられるものの、販売量については、変化が余りみられないことから、景気は変わらない。
	☐	コピーサービス業（従業員）	取引先の様子	・取引先における購買状況や来年度に向けた予算確保の動きが鈍化していることから、景気は横ばいで推移している。
	☐	その他非製造業 〔鋼材卸売〕 （従業員）	受注量や販売量の動き	・ベース商材については、スポット案件による積み増しもあって、数値上はよく見えるものの、それを除いた受注量は前年よりも減っている。市場の動きがまだ活発になっていないことから、景気は変わらない。
	▲	金属製品製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・今年度の新築注文住宅の着工棟数は、前年から12%の減少となっており、工場からの出荷台数も前年から15%程度の減少となっている。今後、回復するような兆しも見当たらない。
	▲	輸送業（支店長）	受注量や販売量の動き	・農作物の荷動きが良くない。水産物の漁獲枠も減少しているため、物量を余り期待できない状況となっている。
	▲	通信業（営業担当）	取引先の様子	・仕入れに掛かる費用や人件費などのコスト増加が顕著なことから、企業収益が減少傾向にある。今後の投資についても悪影響が出ている。
	▲	金融業（従業員）	取引先の様子	・貸金引上げの動きは続いているものの、賃上げする際に重視するポイントが、雇用の維持・確保から、企業業績へとシフトしている。人手不足は依然として重要な経営課題であるものの、物価高や人件費増加による企業収益の低下が懸念される。
	▲	その他サービス業〔ソフトウェア開発〕（経営者）	受注量や販売量の動き	・発注が中止になるケースや決定が遅れるケースが増えている。
	×	司法書士	取引先の様子	・3か月前と比べて、仕事量も取扱金額も増えているものの、輸入品も国産品も軒並み値上がりしていることから、景気は悪くなっている。
雇用 関連 (北海道)	◎	—	—	—
	○	—	—	—
	☐	人材派遣会社（社員）	求職者数の動き	・求職者の登録が3か月前よりも増加している。企業の採用意欲は3か月前と変わらず高く、企業と求職者の面接数も増えていることから、景気は引き続き上向きで推移している。
	☐	求人情報誌製作会社（編集者）	雇用形態の様子	・今年に入り、アルバイト・パートの求人数の減少が目立っていたが、ここに来て求人数が下げ止まりつつある。その一方で、正社員の求人が減少し始めている。
	☐	求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・アルバイト・パートの求人申込みが減少傾向にある。スポットワークの活用が進んでいることに加えて、アルバイト・パートの時給が上昇していることから、正社員採用にシフトする動きがみられるようになっている。
	☐	職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数は前年から17.6%の減少と2か月ぶりに前年を下回ったものの、月間有効求人数は前年から3.1%の減少にとどまっており、求人数の落ち込みが大きいとまではいえない状況にある。
	☐	職業安定所（職員）	求人数の動き	・当地における7月の有効求人倍率は0.81倍であり、前年を0.01ポイント上回った。
	☐	職業安定所（職員）	それ以外	・何らかの変化を感じるような要素が見当たらない。
	☐	職業安定所（職員）	求人数の動き	・直近の求人状況をみると、全産業において顕著な増減はみられないことから、景気は変わらない。
	☐	学校〔大学〕 （就職担当）	求人数の動き	・人手不足の状況は変わっていない。前年と比べても、大きな変化はみられない。

	▲	求人情報誌製作 会社（編集者）	周辺企業の様子	・物価高が進んでおり、それに伴って様々なコストが上昇しているものの、それをカバーできるような売上増加はみられない。賃金の引上げも進んでいないことから、景気はやや悪くなっている。
	×	—	—	—